

令和 6 年 6 月 24 日現在

機関番号：14602
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2023
課題番号：17K00791
研究課題名（和文）四川省・チベット族の集落特性と変容および集落特性を生かした集落整備に関する研究

研究課題名（英文）Research on the characteristics and transformation of Tibetan villages in Sichuan Province and village development that takes advantage of village characteristics

研究代表者
中山 徹（NAKAYAMA, TORU）
奈良女子大学・生活環境科学系・教授

研究者番号：60222171
交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、カンゼチベット族自治州で暮らすギャロンチベット族、ムヤチベット族、カンパチベット族の集落を対象に集落空間構成の特徴を明らかにした上で、各支系の集落に共通する特徴、相違点を明らかにした研究である。全ての集落に共通しているのは、道路の種類、公共施設の種類、住居と農地の配置、牧地の配置の4項目であり、ギャロンチベット族とムヤチベット族に共通している項目は多かった。ギャロンチベット族とカンパチベット族のみに共通している項目は存在しなかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究には二つの学術的意義がある。一つ目は、四川省カンゼチベット族自治州で暮らすギャロンチベット族、ムヤチベット族、カンパチベット族の集落空間構成の特徴を明らかにした点である。二つ目は、四川省カンゼチベット族自治州で暮らすギャロンチベット族、ムヤチベット族、カンパチベット族の集落空間構成の共通点と相違点を明らかにした点である。このような比較研究は存在していなかったが、本研究ではあらかじめ共通の調査項目を設定していたため、このような比較が可能になったと言える。

研究成果の概要（英文）：This paper is a study that clarifies the characteristics of the spatial structure of settlements of the Gyaron Tibetan, Mucha Tibetan, and Kangba Tibetan ethnic groups living in the Kanze Tibetan Autonomous Prefecture, and then clarifies the common characteristics and differences between settlements of each subgroup. There are four items that all the settlements have in common: type of roads, type of public facilities, layout of houses and farmland, and layout of pastures, and there are many items that are common to the Gyaron Tibetan and Mucha Tibetan groups. There were no items that were common only to the Gyaron Tibetan and Kangba Tibetan groups.

研究分野：家政学

キーワード：チベット族 集落 四川省

1. 研究開始当初の背景

本研究は、四川省カンゼチベット族自治州で暮らすギャロンチベット族、ムヤチベット族、カンバチベット族の集落空間構成に関する比較研究である。四川省はチベット自治区以外でチベット族が多く暮らしている省である。中でもカンゼチベット族自治州はチベット族が多く暮らしている地域で、人口 118 万人のうち 81.9%がチベット族である。その自治州で暮らすチベット族の中からチベット族支系であるギャロンチベット族、カンバチベット族及び雅魯江流域とその東部で独自の方言を使用しているチベット族の中からムヤチベット族を選び各々の集落を調査対象としている。

四川省のチベット族に関して民族学や宗教学、言語学の視点からは様々な研究が見られる。建築物については望楼を研究対象としたものが多く(松岡 2017 など)、井上(2000)、本間(2010)は住居の空間構成を調査している。集落に関する研究は少ないが、ギャロンチベット族の集落を対象とした研究はいくつか存在する。李(2011)はギャロンチベット族の集落を取り上げ、集落を山谷型、山腹緩斜面型、山間台形型、山頂高地型に分類し、高(2015)はギャロンチベット族集落の土地利用、公共施設について調査している。また、徐(2004)はギャロンチベット族集落の変遷を調査し、王(2021)はギャロンチベット族の集落保存について提案し、周(2014)はギャロンチベット族集落の景観的特徴を調査している。ムヤチベット族、カンバチベット族の集落を対象とした研究は少ない。濱田(2001)は中国西南部で暮らす複数の少数民族を対象に各々 1~2 の集落を調査しているが、その中にカンバチベット族の集落が含まれている。同じように鄭(2020)は四川省西部地域で暮らす複数の少数民族を対象とした調査を行っているが、その中にカンバチベット族の集落が含まれている。蘭(2022)はムヤチベット族の集落を調査しているが、視点はムヤチベット族がかつて、どのように集落を防御していたかであり、主として集落の地形、望楼などについて調査している。

2. 研究の目的

チベット自治区以外で複数のチベット族支系が暮らしている地域として四川省カンゼチベット族自治州をあげることができるが、そのチベット族支系の集落を対象とした比較研究は存在しない。そこで本研究は、①カンゼチベット族自治州で暮らすギャロンチベット族、ムヤチベット族、カンバチベット族の集落を対象に集落空間構成の特徴を明らかにし、②それを踏まえ、各支系の集落に共通する特徴、相違点を明らかにすることを目的としている。

3. 研究の方法

調査方法は現地調査及びインタビュー調査で、ギャロンチベット族の 10 集落(調査期間は 2015 年 7 月、2016 年 12 月~1 月、2017 年~2019 年に補足調査)、ムヤチベット族の 11 集落(調査期間は 2015 年 7 月、2017 年 10 月~11 月、2018 年~2019 年に補足調査)、カンバチベット族の 13 集落(調査期間は 2015 年 7 月~8 月、2019 年 2 月~3 月)を調査している。共通調査項目として、集落の地形的特徴(平面)、集落の地形的特徴(断面)、集落と国道の関係及び道路の種類、公共施設の有無(活動センター、保健室、広場、学校)と分布、集落と河川の位置関係及び水源、集落の入り口数、集落と隣村の関係、住宅・農地・牧地の分布、宗教施設の有無(寺、白塔、經堂)と位置関係を設定している。

4. 研究成果

表「集落空間構成の特徴」に記載したとおり、ギャロンチベット族、ムヤチベット族、カンバチベット族集落の全てに共通しているのは、道路の種類、公共施設の種類、住居と農地の配置、牧地の配置の 4 項目であった。そして、ギャロンチベット族とムヤチベット族集落のみに共通しているのは、面積、集落の高低差の 2 項目であった。ムヤチベット族とカンバチベット族集落のみに共通しているのは、海拔、集落の立地、傾斜度、集落と国道の関係、水源、入り口、宗教施設の種類、集落と河川の関係、集落と隣村の関係の 9 項目であった。ギャロンチベット族とカンバチベット族のみに共通している項目、共通点のない項目は存在しなかった。

ムヤチベット族とカンバチベット族集落には共通する項目が多いが、その理由は集落が河川に沿って広がり河川の両岸斜面に立地しているという基本が同じであるからだと考えられる。そのため、河川は集落を縦断し、河川に沿って通っている国道は集落を貫通し、集落の入り口は 2 か所になり、河川から近い農地では河川の水を用水として使っている。一方、ギャロンチベッ

ト族の集落は河川から離れた斜面に立地している。そのため、ムヤチベット族、カンバチベット族集落とは共通点が少ないと考えられる。

さらにそのような基本的違いが生じたのはギャトンチベット族の集落は他と比べ海拔が低いところに形成されており、かつては戦闘行為が多かったのではないかと推測できる。そのため、比較的移動が容易な河川沿いを避け、攻めてくる敵を発見しやすく、逆に攻められにくい河川から離れた斜面に集落を築いたと思われる。一方、ムヤチベット族、カンバチベット族の集落は海拔が高い。そのため、地域全体の人口密度も低く、比較的戦闘行為が少なく防御も重要であるが、生活の利便性を重視し河川沿いに集落を形成したのではないかとと思われる。現状では推測にとどまっている面もあるが、学術的に重要な問題提起だと思う。

表 集落空間構成の特徴

	ギャロンチベット族	ムヤチベット族	カンバチベット族
海拔(m)	2000~2100	3500~3800	3400~3500
面積(km ²)	5~8	5~8	7~12
集落の立地	河川の片岸斜面に立地	河川沿いの谷、両岸斜面に立地	河川沿いの谷、両岸斜面に立地
集落の高低差(m)	300~600	300~600	200~400
傾斜度(度)	0~10	10~20	10~20
道路の種類	国道、主要道、小道	国道、主要道、小道	国道、主要道、小道
集落と国道の関係	集落から分離	集落内を貫通	集落内を貫通
公共施設の種類	活動センター、保健室 広場	活動センター、保健室 広場	活動センター、保健室 広場
水源	泉	河川と泉	河川と泉
入り口	単数	2か所	2か所
住居と農地の配置	散住	散住	散住
牧地の配置	住居と農地の周辺	住居と農地の周辺	住居と農地の周辺
宗教施設の種類	経堂、白塔、寺	経堂、白塔	経堂、白塔
集落と河川の関係	河川から分離	集落内を縦断	集落内を縦断
集落と隣村の関係	独立	隣接	隣接
凡例		2つのチベット族集落に共通する項目	
		3つのチベット族集落に共通する項目	

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 王 雪桔、中山 徹	4. 巻 87
2. 論文標題 ギャロンチベット族集落の空間構成について 四川省カンゼチベット族自治州を対象として	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本建築学会計画系論文集	6. 最初と最後の頁 2418-2429
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3130/aija.87.2418	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 王 雪桔、中山 徹	4. 巻 138
2. 論文標題 ムヤチベット族集落の空間構成について 四川省カンゼチベット族自治州を対象として	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 家政学研究	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 王 雪桔、中山 徹	4. 巻 88
2. 論文標題 カンパチベット族集落の空間構成についてー四川省カンゼチベット族自治州を対象としてー	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本建築学会計画系論文集	6. 最初と最後の頁 1927-1938
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3130/aija.88.1927	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 王雪桔・中山徹
2. 発表標題 四川省・チベット族集落の空間構成について ムヤ・カンパ・ギャロンチベット族集落比較研究
3. 学会等名 日本建築学会大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------